

令和4年度 経営発達支援計画
地域経済動向調査

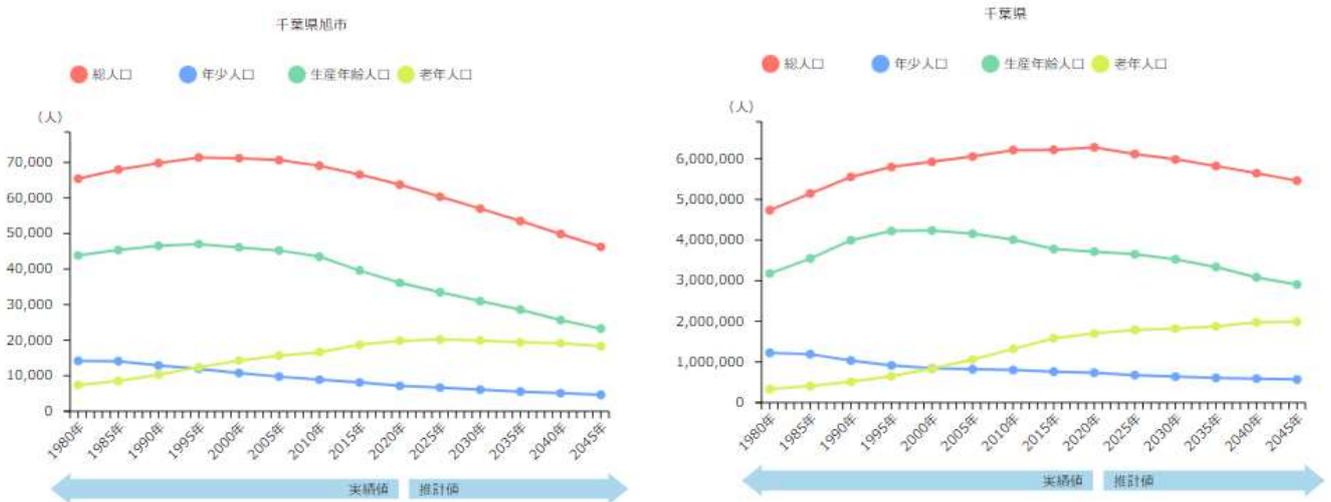
調査目的

地域の産業・経済の現状を把握することを目的とし、国が提供する RESAS を活用した地域経済動向分析を行う。

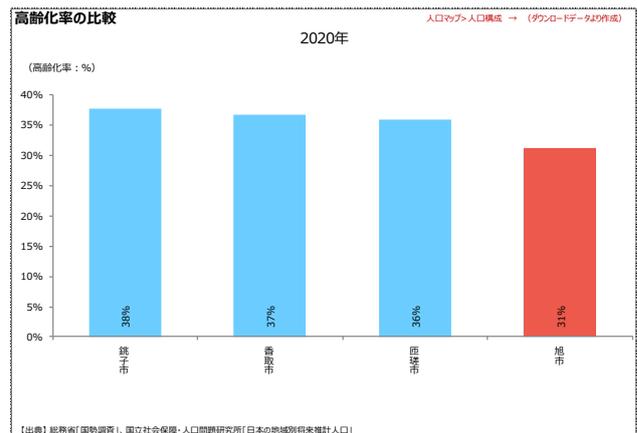
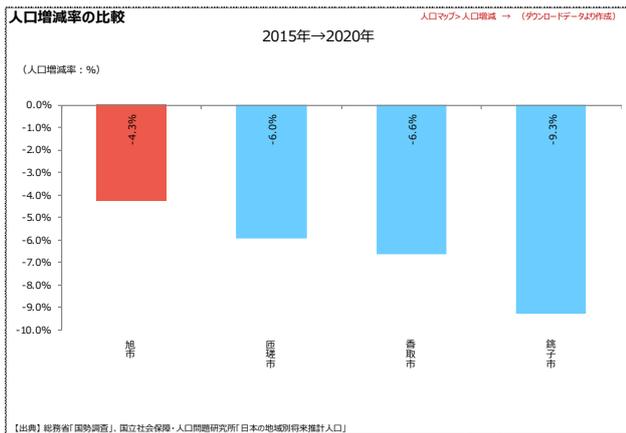
調査結果

①人口に関する調査結果

千葉県全体の人口は、2020年の6,284,480人をピークとして減少していく推計となっている。旭市の総人口は1995年の71,382人をピークとして年々減少し2020年には63,745人となっている。また、このままの推移で行けば2045年には46,228人にまで減少する見込みとなっている。一方で、老年人口に区切ると統計のさかのぼれる1980年には7,388人であったが、2020年では19,843人となりこのままの推移で行けば、2045年には18,312人までと増加する見込みとなっている。2020年の実績値と比較すると老年人口の割合は千葉県全体と比べて高くなっている一方で、生産年齢の人口割合は千葉県と比べて低い水準となっている。

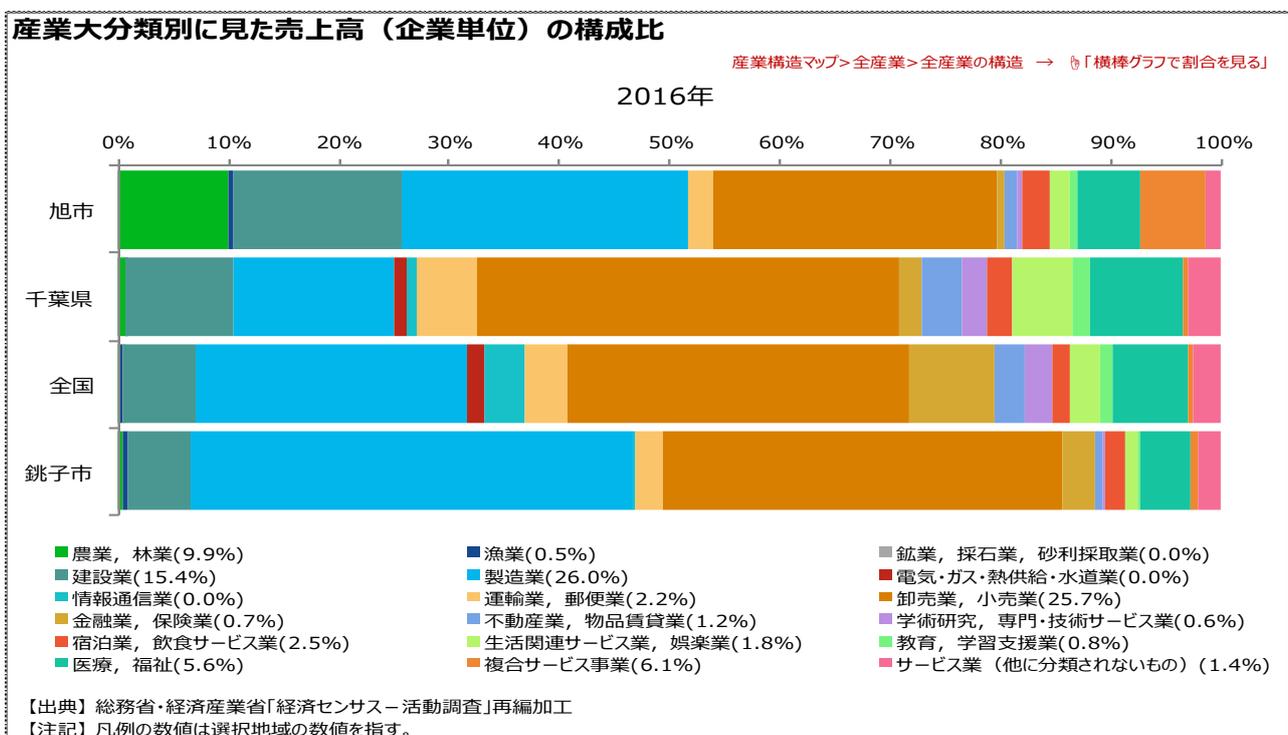


この結果を近隣である匝瑳市、香取市、銚子市と比較すると2015年から20年の5年間は減少率-4.3%となっており、他の3市よりも低い水準となっている。また、2020年の数値による高齢化率の比較を行っても31%となり、千葉県北東部の市に比べると比較的低い値となっている。



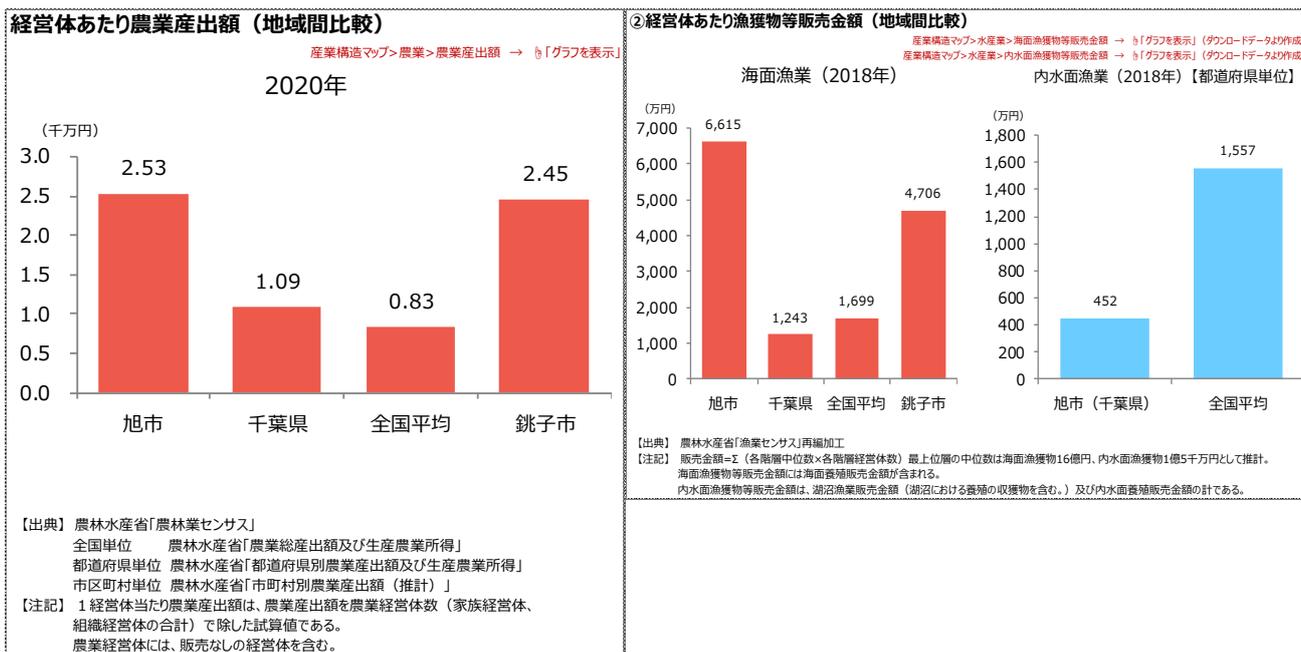
このことから、千葉県全体に比べ高齢化が進んでいるものの千葉県北東部の中では比較的人口の減少率と高齢化率が低く抑えられている結果となった。高齢者人口は千葉県全体と比べて高い比率となっており、今後ますます「高齢者向けの事業」への参入の機会が多くなる事も予想されます。現在旭市では「生涯活躍のまち・あさひ形成事業」による元気な高齢者を中心とする都市住民の誘致と若者世代の流出抑制と流入促進及び仕事づくりを実現させ、旭市全体の活性化につなげるための「新しいまちづくり」を行い、その実現に向けて市全体で取り組んでいます。

②産業構造に関する調査結果



旭市の産業構造としては売上高ベースでの構成比で、農業と漁業が千葉県内、全国の平均

と比べ大きくなっており、特徴的な産業と言える。

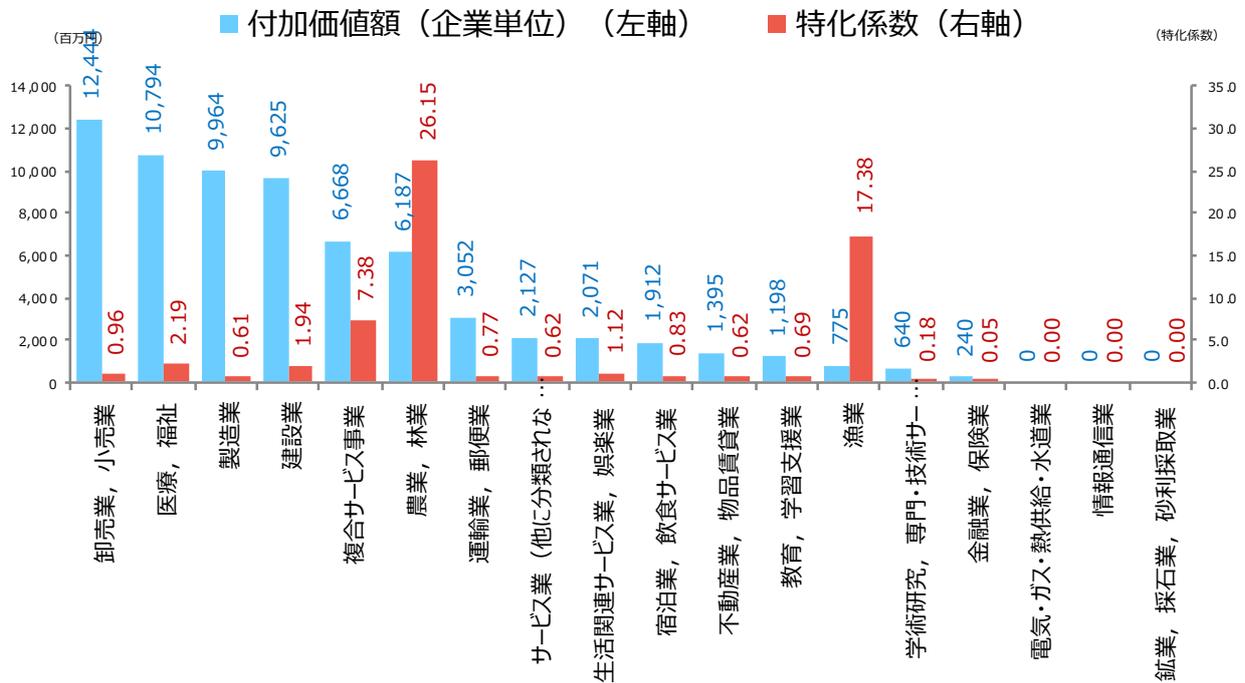


売上で比較すると農業の経営体あたりの農業産出額は 2.53 千万円と全国平均を大きく超えおり、また、漁業の特に海面漁業でも 6.61 千万円であり全国平均では 1.7 千万円と超えている。このことから、旭市の農業と漁業は経営体ごとの売上規模が大きく生産効率が高い特徴的な産業であることが伺える。

産業大分類別に見た付加価値額（企業単位）

産業構造マップ>全産業>全産業の構造 → (ダウンロードデータより作成)

2016年



【出典】総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

付加価値額で比較したデータでは、農業と漁業の産業構成比率（特化係数）が顕著に高い値を示しており、この面からも旭市の特徴であると考えます。特徴的な産業は今後、日本の食料自給率の低さや世界的な食糧危機が予測されている中で将来性があると予測されます。また、農業・漁業に比べると顕著ではないが、医療・福祉分野での特化係数もが高い値を示していることから特徴的な産業であると考えます。

今後、旭市が特化している農業・漁業を活かし、地産地消を促進させる飲食店の活性化を図ることと、医療福祉分野のサービスをPRすることにより、新たな観光客の誘致から、旭市が掲げる「生涯活躍のまち・あさひ形成事業」との相乗効果や実現することで、人口減少が抑えることが出来るのではないかと考えます。